

# 京大広報

No. 315

京都大学広報委員会



中国大連外国語学院の正門 一関連記事本文 122 ページ

## 目 次

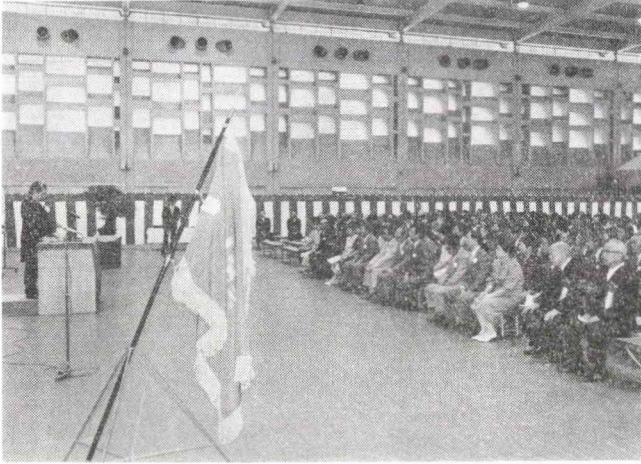
創立記念式典の挙行.....	122	白馬山の家の夏季開設.....	126
部局長の交替等.....	122	<資料>	
医療技術短期大学部主事の交替.....	122	昭和61年度大学院学生	
中国政府派遣大学院留学生の ための予備教育への協力.....	122	入学状況（修士課程・博士後期課程）.....	126
<紹介>		計 報.....	127
農学部		<随想>	
農林経済学科.....	123	留学生に学ぶ	
<保健コーナー>		名誉教授 西 朋太.....	128
高脂血症をめぐる二、三の話題.....	124		

## 〈大学の動き〉

## 創立記念式典の挙行

6月18日(水)、本学創立89周年記念式典が、名誉教授、部局長ら関係者多数の出席を得て、本学総合体育館において挙行された。

式典は午前10時に始まり、総長式辞、永年勤続



者の表彰、永年勤続者代表の答辞があり、本学の発展を祈念して、松田長三郎名誉教授の発声により万歳三唱が行われ、午前11時10分終了した。

本年の勤続30年表彰者は37名、勤続20年表彰者は149名、計186名である(被表彰者氏名は6月20日の学報第4168号に掲載されている)。

総長は式辞の中で、これら永年勤続者の労をねぎらうとともに、この一年間における研究・教育のための体制及び整備充実等、本学の発展と現状について報告し、更に、九十周年、百周年に向けてますます立派な学問の府としての発展を考え、研究・教育の環境整備、学術国際交流等、今後一層推進すべき事柄について述べた。

引き続き11時35分から京大会館2階会議室で名誉教授懇談会が、また正午から同会館1階講演室及びラウンジで永年勤続被表彰者祝賀会がそれぞれ開催された。

## 部局長の交替等

## ヘリオトロン核融合研究センター長

宇尾光治ヘリオトロン核融合研究センター教授(超高温プラズマ制御研究部門担当)が7月1日同センター長に再任された。任期は昭和63年3月31日までである。

## 医療技術短期大学部主事の交替

大塚哲也医療技術短期大学部主事の任期満了に伴い、その後任として小西 昭医療技術短期大学教授(看護学科)が7月1日任命された。任期は昭和63年6月30日までである。

中国政府派遣大学院留学生  
のための予備教育への協力

中国政府は、日本に派遣する大学院留学生に対し、来日前に日本語による基礎的専門教育及び必要な言語教育等の予備教育を実施している。この予備教育について、文部省を通じて本学に協力依頼があり、下記のように教養部教官を中心に専門教育を担当する教官が、毎年、大連外国語学院派

遣留学生養成訓練部に派遣されている。

本年も農学部石橋武彦教授を派遣団長とする8名の教官が7月1日から9月16日まで派遣されることとなり、6月24日(火)学生部会議室で、総長をはじめ関係教職員が出席して壮行会が行われた。

現在本学に在学する中国人留学生数は147名(うち大学院留学生93名)に達し、各国留学生のうちで、最多数である。



昭和61年度派遣教官

石橋 武彦 農学部 教授 (生物学) 団 長  
 中井 祥夫 理学部 〃 (物理学) 副団長  
 笠原 皓司 教養部 〃 (数 学)  
 赤坂 一之 理学部 助教授 (化 学)  
 岩井 齊良 教養部 〃 (数 学)  
 西井 正弘 〃 〃 (国際関係論)  
 阿部 宏尹 工学部 講 師 (情報工学)  
 大西 匡光 〃 助 手 ( 〃 )

なお、昭和57年度から昭和60年度までの派遣教官は次の通りである。

(学部、官職は派遣時)

(昭和57年度) 昭和57年 6月14日～昭和57年 9月27日

加治 有恒 理学部 教授 (化 学) 団 長  
 辻井 潤一 工学部 助教授 (情報工学)  
 西村 孟 教養部 教授 (数 学)  
 徳岡 善助 〃 〃 (物 理 学)  
 小林 恒明 〃 助教授 (生 物 学) (5名)

(昭和58年度) 昭和58年 7月 5日～昭和58年 9月16日

木下 圭三 教養部 教授 (化 学) 団 長  
 笈田 知義 〃 〃 (教 育 学) 副団長  
 竹山 幹夫 〃 〃 (物 理 学)  
 奥田 光郎 〃 〃 (生 物 学)

滝澤 精二 教養部 教授 (数 学)  
 富田 博之 〃 助教授 (物 理 学)  
 阿草 清滋 工学部 講 師 (情報工学)  
 國枝 義敏 〃 助 手 ( 〃 ) (8名)

(昭和59年度) 昭和59年 7月 3日～昭和59年 9月16日

東 愼之介 教養部 教授 (化 学) 団 長  
 山崎 和夫 〃 〃 (物 理 学) 副団長  
 後藤 喬雄 〃 助教授 ( 〃 )  
 西村 三郎 〃 教授 (生 物 学)  
 大塚 香代 〃 〃 (数 学)  
 足利 健亮 〃 助教授 (人文地理学)  
 吉田 進 工学部 〃 (情報工学)  
 高木 直史 〃 助 手 ( 〃 ) (8名)

(昭和60年度) 昭和60年 7月 2日～昭和60年 9月18日

宮武 義郎 教養部 教授 (物 理 学) 団 長  
 木方 洋 〃 〃 ( 〃 ) 副団長  
 鈴木 敏 〃 〃 (数 学)  
 速水 醇一 〃 〃 (化 学)  
 堀川 哲男 〃 助教授 (歴 史 学)  
 小山 博滋 理学部 〃 (生 物 学)  
 平石 裕実 工学部 講 師 (情報工学)  
 新實 治男 〃 助 手 ( 〃 ) (8名)  
 (学生部)

< 紹 介 >

農学部農林経済学科

農林経済学科は農学部創設とともに設置され、大正12年から15年にかけて林政学、農業経営学、農政学、農史、農業計算学の5講座が順次開講されたが、昭和27年に農学原論講座が設置されて6講座となり、現在に及んでいる。

本学科は農学部の10学科中、唯一の人文・社会科学系学科であるが、応用科学としての農学の特性に即して、農林業の経済学的認識にとどまらず、問題解決へ向けての実践的アプローチを特色とし、各講座間の密接な協力態勢のもとに研究・教育を進めている。各講座の研究課題の概要は以下のとおりである。

< 農業経営学講座 >

農業経営の組織、運営、診断、設計ならびに地域的な生産組織、農畜産物の流通問題などに関する理論的、実証的研究を行っている。特に、農業

経営学の理論的系譜とわが国農業経営学の発展に及ぼした影響、地域の特性に根ざした農業経営とりわけ畜産経営の管理・運営、それと密接に関連する畜産物の価格変動や流通機構について調査研究を進めている。

< 農業計算学講座 >

農家経済の構造把握、農業経営の分析、農畜産物の生産費構成の検討には農業計算学の方法の確立が不可欠である。農家資産や農業経営の分析のためには評価に関する理論も重要である。さらに、収集した資料や理論的成果を利用した計画的な方法論の構築も本講座の中心領域である。個別農家経済だけでなく、地域農業の経済構造、農業関連企業の組織、海外の農業開発のための分析、計画、情報処理などについても研究領域を拡大している。

< 農政学講座 >

発展途上諸国の食糧不足問題、先進国における非農業部門への資源、特に農業労働力の移動問題

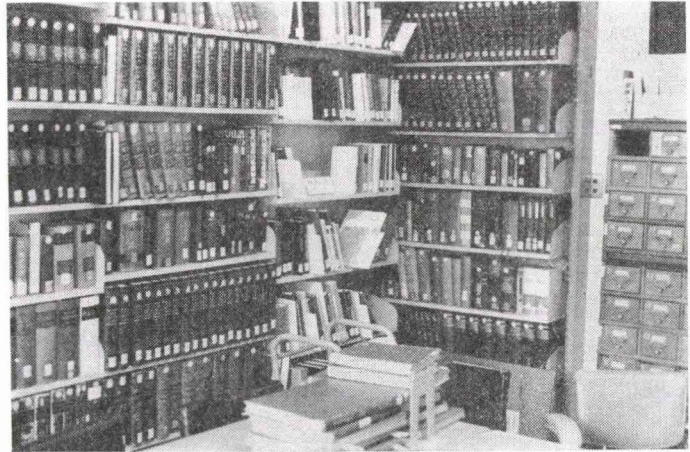
は、市場競争システムと農業者の自主的共同システムにまかせるだけでは解決しえない。価格・生産・構造・環境諸政策による効果的な干渉が不可欠である。本講座は、世界経済ならびに社会的価値観の変動に対応して、農政課題や効果的な農業・農村政策がどのように変遷してきたかを、歴史的、理論的に研究することを中心課題としている。そのさい特に農業者と農村の福祉向上を重視する。

#### 〈林政学講座〉

国民経済の一環としての林業の経済政策と国土政策の一環としての森林政策について研究を行っている。前者では、産業としての林業の経済政策を主に計量経済学的見地から研究することを目的とし、後者では、森林のもつ国土保全機能、水資源涵養機能、福祉厚生機能、空気浄化機能等の公益機能を計量評価し、それらを国土政策に生かすためのコンピュータ・シミュレーションによる森林の最適空間配置計画等についての研究を目的としている。最近では、森林文化や緑の文明などの面で果たす森林の役割についても研究領域を拡大している。

#### 〈農史講座〉

資本主義と農業との関係を、農業経営の運動を通じて解明することを主な研究課題としている。すなわち、農産物市場、労働市場などが農業に及ぼす影響を農業経営の場で統一的に分析する方法を研究し、この分析手法により農業経営の運動を解明するとともに、地主制、農民運動、農業政



農林経済学科資料閲覧室

策、農業生産力との関連を分析する。現在、商品作物による農業類型—農業所得水準—農業生産力—小作料率—農民運動—小作調停—自作農創設—自作農前進層の形成といった視点から共同研究を進めている。

#### 〈農学原論講座〉

「生」の観点から農業の特質を追究しつつ、現代社会における農業・農村の価値と機能を解明し、さらに農学や農業教育の在り方ならびに農業の進路を探究することを主な課題としている。このためには農業・農学の歴史的特性と地域的特性を解明する必要がある。前者については、特に近代における農学と農業思想の展開と特質を探り、後者については農業・農村の地域的特性と活性化の方策を、発展途上諸国をも視野に入れて研究を進めている。

(農学部)

#### 保健コーナー

### 高脂血症をめぐる二、三の話題

人間ドック検査成績として、思いもしなかった高脂血症とか、血清中性脂肪高値という病的状態を知ることになり、驚いて主治医に相談する事例が増加している。経済発展による蛋白質、脂肪、総カロリーの摂取量増加に伴う心筋梗塞、糖尿病、肥満などの発現に関心が高まっている折柄、成人病の原因として、動脈硬化と血中脂肪濃度と

の関係がしばしば巷間の話題となり、血中脂肪量の多寡が気になるのは当然のことと理解される。

高脂血症とは

高脂血症とは血液中の脂肪濃度が高いことを表現するものであるが、元来脂肪と水はお互いに相容れないものであるため、主なエネルギー源として利用するために、ヒトの体内では蛋白(アポ蛋白)と複合体になり、脂質蛋白(リポ蛋白)となるような仕組になっている。この意味で高脂血症は高脂質血症または高リポ蛋白血症と表現される



べきものである。

高脂血症に対する医学的研究の歩みは、1827年に加齢者によくみられる上眼瞼内側の黄色腫に関する文献が脂肪代謝異常に関心を集める発端となった。黄色腫の病因として高コレステロール血症、高脂血症という概念が生れたのは1938年である。その後も病因として遺伝的なもの、脂肪の過剰摂取に対する脂肪の処理障害によるもの、糖質の過剰摂取に基づく内因性脂肪の合成亢進によるものとする病態と治療法を加味した分類が考案された。血清リポ蛋白代謝を取り入れた近代分類として1965年に、I型よりV型までの高脂血症の概念が提唱され、WHOの専門委員会で完成されたのは1970年である。コレステロール、中性脂肪、磷脂質、 $\beta$ -リポ蛋白の他、超低比重リポ蛋白、低比重リポ蛋白、高比重リポ蛋白(HDL、動脈硬化の発生を抑制する)も測定可能となり、高脂血症の病態解明に期待がもたれている。

#### 高脂血症の臨床像

高脂血症は疾患名ではなく、病的状態の総称である。臨床的には、遺伝性のもので、アルコールを含めた食事と運動によるものなど他に脂質代謝、リポ蛋白代謝の異常をもたらす疾患の合併のみられないものを一次性高脂血症、糖尿病、甲状腺機能低下症、ネフローゼ症候群など脂質代謝異常が病態の一部である疾患に合併しているものを二次性高脂血症として分類されている。

さて、高脂血症が話題になる最大の理由は動脈硬化とのかかわりである。高脂血症の継続期間、高血圧、糖尿病、高尿酸血症などの合併により動脈硬化は進展することが多い。また、高脂血症の種類により、動脈硬化の発生部位(腹部大動脈、冠状動脈、頸動脈など)にそれぞれの特徴的な傾向があるとされている。高脂血症殊に高コレステロール血症では血小板も凝集し易くなり、動脈硬化発生の一役を担っている。遺伝性の家族性高脂血症は動脈硬化症との関連が高いが、中性脂肪のみ高値を示す場合は、糖尿病、高尿酸血症の合併がみられるものを除いて動脈硬化との関係は少ないとされている。

糖尿病は炭水化物代謝が障害される疾患であるが、脂質代謝も障害され、管理が不十分であると

動脈硬化、眼の網膜、腎の血管に糖尿病性変化が現われ生命にかかわることが多い。血清白濁、中性脂肪増加、HDL低下をみるのが比較的多いが、治療によって血糖値が低下しても高脂血症が改善されない例は、糖尿病と無関係に一次性高脂血症を合併していると考えられている。

アルコールは比較的速やかに胃、小腸より吸収され、大部分肝で代謝される。アルコール過剰摂取時には主として中性脂肪が増加し、アルコール性脂肪肝などの肝障害を惹起する。一方肝障害を起こさない程度のアルコール摂取者はHDLが高値を示し、虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)の合併が少ないことも知られている。

狭心症、心筋梗塞との関係が深い心臓の冠動脈硬化症では、コレステロール、低比重リポ蛋白、中性脂肪の値が高いことが多く、HDL低値、低比重リポ蛋白高値との相関が認められている。高脂血症は血液の粘稠度を増し、心筋虚血を助長することがある。以前日本には、脳出血が多く、虚血性心疾患、脳梗塞が少なかったが、これは食習慣に起因してコレステロール値が比較的低値であったことによることが判明し、近代食事内容の変化に伴ってコレステロール値の上昇と共に脳出血は減少し、虚血性心疾患、脳梗塞が増加している。

#### 高脂血症の治療法

高脂血症の治療は、高脂血症の病態発生機序の解明に伴って薬剤の使用規準も標準化される機運にある。しかし、最善の治療法は運動、栄養療法であることに異論はあるまい。運動によるコレステロール、中性脂肪の低下とHDLの増加が知られているが、虚血性心疾患の有無のチェックが必要である。食事療法として、高コレステロール血症にはコレステロール含有食品の摂取を減らすことも大切であるが、一般的に植物性脂肪、魚類、植物せんいなどを多く摂り、アルコール、総カロリーの減量、肥満矯正にも努力を継続することが肝要である。二次性高脂血症に対しては、高脂血症をもたらしている疾患が先づ治療されなければならない。

(保健管理センター 小川隆三)

### 白馬山の家の夏季開設

本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている白馬山の家を、今夏も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の桐池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山及び避暑などに最適です。

なお、建物は、山小屋風の木造地上2階地下1階建てで、間取りは、1階が食堂兼談話室、2階が寝室（ベッドで42名収容）、地階が浴室、乾燥室等からなっています。

記

1. 名称 京都大学<sup>はくほ</sup>白馬山の家

2. 所在地 長野県北安曇郡<sup>あづみ おたり</sup>小谷村大字千国<sup>ちくに</sup>字柳久保乙869の2

(交通機関)

国鉄大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「親<sup>おや</sup>の原<sup>はら</sup>」下車、徒歩約20分

3. 開設期間 7月10日(木)から8月20日(水)まで

4. 所要経費 1人1泊 使用料80円、ほかに食費実費程度

5. 申し込み及び利用に関する詳細は、体育会事務室(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)に照会してください。

(学生部)

<資料>

### 昭和61年度大学院学生入学状況(修士課程)

上段……志願者数  
下段……入学者数

研究科名	京都大学 出身者	他 大 学 出 身 者			外国の 学校卒	その他	計	入学者/ 入学者 比率(%)
		国 立	公 立	私 立				
文学研究科	119 54	52 9	10 2	51 2	10 4	0 0	242 71	29.3
教育学研究科	23 10	12 2	2 0	7 0	1 1	0 0	45 13	28.9
法学研究科	45 10	16 0	3 1	23 0	1 1	0 0	88 12	13.6
経済学研究科	24 11	19 1	2 1	23 3	4 3	0 0	72 19	26.4
理学研究科	282 134	133 12	12 1	42 4	6 5	2 0	477 156	32.7
薬学研究科	45 28	7 3	3 2	8 1	0 0	0 0	63 34	54.0
工学研究科	771 600	35 12	20 1	34 2	27 24	0 0	887 639	72.0
農学研究科	146 105	63 19	6 4	10 0	16 16	1 0	242 144	59.5
計	1,455 952	337 58	58 12	198 12	65 54	3 0	2,116 1,088	51.4
入学者/ 入学者 比率(%)	65.4	17.2	20.7	6.1	83.1	0	51.4	

## 昭和61年度大学院学生入学状況（博士後期課程）

上段……志願者数  
下段……入学者数

研究科名	京都大学 出身者	他 大 学 出 身 者			外国の 学校卒	計	入学者/ 入 志願者 比 率 (%)
		国 立	公 立	私 立			
文学研究科	64 52	19 4	1 0	8 0	1 0	93 56	60.2
教育学研究科	20 16	0 0	0 0	0 0	0 0	20 16	80.0
法学研究科	18 17	4 0	0 0	3 1	0 0	25 18	72.0
経済学研究科	12 12	4 2	0 0	4 0	0 0	20 14	70.0
理学研究科	97 96	3 2	0 0	1 1	3 3	104 102	98.1
医学研究科	97 75	44 27	3 1	10 6	10 6	164 115	70.1
薬学研究科	17 17	0 0	0 0	0 0	0 0	17 17	100.0
工学研究科	75 67	7 7	2 1	1 1	12 12	97 88	90.7
農学研究科	59 57	6 6	2 2	0 0	10 10	77 75	97.4
計	459 409	87 48	8 4	27 9	36 31	617 501	81.2
入学者/ 入 学 志 願 者 比 率 (%)	89.1	55.2	50.0	33.3	86.1	81.2	

## 計 報

櫻田 一郎（本学名誉教授・工学博士）

6月23日逝去，82歳。本学工学部卒業。昭和10年本学工学部教授就任，42年退官。その間評議員（37年～39年），工学部長（40年～42年）を歴任。30年繊維素誘導体及び合成繊維に関する研究により学士院賞，31年紫綬褒章，42年日本学士院会員，49年勲二等旭日重光章，52年文化勲章（広報No148参照）。専門は高分子化学。

藤本 徳治（工学部講師・工学博士）

6月25日逝去，51歳。本学大学院工学研究科修士課程修了。昭和53年本学工学部講師就任。専門は高分子光化学。

